祓詞

掛けまくも畏き　伊邪那岐大神　筑紫の日向の橘小戸の阿波岐原に　御禊祓へ給ひし時に生り坐せる祓戸の大神等　諸の禍事　罪穢有らむをば　祓へ給ひ清め給へと白す事を聞こし食せと　恐み恐みも白す

大祓詞

高天原に神留り坐す　皇親神漏岐　神漏美の命以ちて　八百萬神等を神集へに集へ賜ひ　神議りに議り賜ひて　我が皇御孫命は　豊葦原水穂國を安國と平けく知ろし食せと　事依さし奉りき　此く依さし奉りし國中に　荒振る神等をば　神問はしに問はし賜ひ　神掃ひに掃ひ賜ひて　語問ひし磐根　樹根立草の片葉をも語止めて　天の磐座放ち　天の八重雲を伊頭の千別きに千別きて　天降し依さし奉りき　此く依さし奉りし四方の國中と　大倭日高見國を安國と定め奉りて　下つ磐根に宮柱太敷き立て　高天原に千木高知りて　皇御孫命の瑞の御殿仕へ奉りて　天の御蔭　日の御蔭と隠り坐して　安國と平けく知ろし食さむ國中に成り出でむ天の益人等が　過ち犯しけむ種種の罪事は　天つ罪　國つ罪　許許太久の罪出でむ　此く出でば　天つ宮事以ちて　天つ金木を本打ち切り　末打ち断ちて　千座の置座に置き足らはして天つ菅麻を本刈り断ち　末刈り切りて　八針に取り辟きて　天つ祝詞の太祝詞事を宣れ

此く宣らば　天つ神は天の磐門を押し披きて　天の八重雲を伊頭の千別きに千別きて　聞こし食さむ　國つ神は高山の末　短山の末に上り坐して高山の伊褒理　短山の伊褒理を掻き別けて聞こし食さむ　此く聞こし食してば　罪と云ふ罪は在らじと　科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の如く朝の御霧　夕の御霧を　朝風　夕風の吹き拂ふ事の如く　大津邊に居る大船を　舳へ解き放ち　艫解き放ちて　大海原に押し放つ事の如く　彼方の繁木が本を　焼鎌の敏鎌以ちて　打ち掃ふ事の如く遺る罪は在らじと　祓へ給ひ清め給ふ事を　高山の末　短山の末より　佐久那太理に落ち多岐つ速川の瀬に坐す瀬織津比賣と云ふ神　大海原に持ち出でなむ　此く持ち出で往なば　荒潮の潮の八百道の八潮道の潮の八百會に坐す速開都比賣と云ふ神　持ち加加呑みてむ　此く加加呑みてば　氣吹戸に坐す氣吹戸主と云ふ神　根國　底国に氣吹き放ちてむ　此く氣吹き放ちてば　根國　底國に坐す速佐須良比賣と云ふ神　持ち佐須良ひ失ひてむ　此く佐須良ひ失ひてば　罪と云ふ罪は在らじと　祓へ給ひ清め給ふ事を　天つ神　國つ神　八百萬神等共に　聞こし食せと白す

石上神宮　奈良県天理市布留町　鎮座

御祭神

布都御魂大神

布留御魂大神

布都斯魂大神

五十瓊敷命　宇摩志麻治命

白河天皇　市川臣命

御由緒

石上神宮は我が国最古の神宮で、健康長寿・病気平癒・鎮魂・必勝の守護神として古代より比類なき信仰をあつめ、神宮の称号をもって人々から畏敬されてまいりました。

御祭神は、神武天皇御東征のおり国土平定に偉功をたてられた天剣（平国剣）を布都御魂大神として崇め、鎮魂の主体である天璽十種瑞宝の起死回生の霊力を布留御魂大神と尊び、素盞嗚尊が八岐大蛇を退治せられた天羽々斬剣の威霊を布都斯魂大神と称え、総称して石上大神と仰がれ、第十代崇神天皇の七年に現地石上布留の高庭に祀られました。

古来より、本殿なく拝殿（国宝）の後方を禁足地といい、御神体が埋斎されていましたが、明治七年この地を発掘し大正二年に現在の本殿が新築されました。その時に出土した勾玉・管玉・古鏡外数々の重宝はいずれも重要文化財に指定され、殊に伝世品の七支刀（国宝）鉄盾（重文）は有名です。

神拝詞

掛けまくも畏き　石上神宮の大前を拝み奉りて　恐み恐みも白さく　大神等の廣き厚き御恵を辱み奉り　高き尊き神敎のまにまに　天皇を仰ぎ奉り　直き正しき眞心もちて　誠の道に違ふことなく　負ひ持つ業に勵ましめ給ひ　家門高く身健に　世のため人のために盡さしめ給へと　恐み恐みも白す

稱言（斉唱）

布都御魂大神　布留御魂大神　布都斯魂大神と
大御名は稱へ奉りて　石上大神　大神大神稜威赫灼尊哉
大神大神稜威赫灼尊哉　大神大神稜威赫灼尊哉

明治天皇御製

一　國民もつねにこころをあらはなむもすそ川の清き流に
二　榊葉にかくる鏡をかがみにて人もこころをみがけとぞ思ふ
三　ちはやふる神のまもりによりてこそわが葦原のくにはやすけれ
四　とこしへに國まもります天地の神のまつりをおろそかにすな
五　わがくには神のすゑなり神まつる昔のてぶりわするなよゆめ
六　おごそかにたもたざらめや神代よりうけつぎたるうらやすのくに
七　めにみえぬ神のこころにかよふこそ人の心のまことなりけれ
八　あさみどり澄みわたりたる大空の廣きをおのが心ともがな
九　さしのぼる朝日のごとくさはやかにもたまほしきはこころなりけり
十　おほぞらにそびえて見ゆるたかねにも登ればのぼる道はありけり

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。
神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。
ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の降昌と世界の共存共栄とを祈ること

神拝詞

石上神宮

十種祓詞

石上神宮蔵版

高天原に神留り坐す　皇親神漏岐　神漏美の命以ちて皇神等の鑄顯はし給ふ　十種の瑞寶を饒速日命に授け給ひ　天つ御祖神は言誨へ詔り給はく　汝命この瑞寶を以ちて　豊葦原の中國に天降り坐して　御倉棚に鎮め置て　蒼生の病疾の事あらば　茲の十種の瑞寶を以ちて　一二三四五六七八九十と唱へつつ布瑠部　由良由良と布瑠部　かく爲しては死人も生反らむと　言誨へ給ひし随まに　饒速日命は天磐船に乘りて　河内國の河上の哮峯に天降り坐し給ひしを爾の後大和國山邊郡布留の高庭なる　石上神宮に遷し鎮め齋き奉り　代代其が瑞寶の御教言を蒼生の爲に　布瑠部の神辭と仕へ奉れり　故この瑞寶とは瀛津鏡　邊津鏡　八握劔　生玉　足玉　死反玉　道反玉　蛇比禮　蜂比禮　品物比禮の十種を布留御魂神と尊み敬まひ齋き奉ることの由縁を　平けく安らけく聞こし食して　蒼生の上に罹れる災害及諸の病疾をも　布留比除け祓ひ却り給ひ　壽命長く伊加志八桑枝の如く立榮えしめ常磐に堅磐に守り幸へ給へと恐み恐みも白す

ひふみ祓詞

ひふみよいむなやことものちらねしきるゆゐつわぬそをたはくめかうおゑにさりへてのますあせえほれけ